

第 133 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学教育学部 特別支援教育領域 教授
香川大学教育学部附属幼稚園 園長
香川大学学生支援センター バリアフリー支援室 室長

坂井 聡

年度替わりは、多くの人たちに新しい環境との出会いを提供するものです。それは子どもたちにとっても例外ではありません。ある子どもは進学、ある子どもは進級、そして、ある子どもは転校といったように、新しい環境と出会うことになるのです。この新しい環境を楽しみにしている子どもたちも多いと思います。

しかし、その一方で新しい環境を、大きな不安を感じながら迎える子どもたちがいることも忘れてはならないでしょう。特に配慮を必要とするのは、発達障害のある子どもたちです。なかでも ASD（自閉スペクトラム症）のある児童生徒は、その気質から特に支援が必要です。そこで、今回は、通常の学級に在籍している ASD のある子どもに焦点を当て、新しい環境を迎える子どもたちを理解し、環境を整えるためには、どのような方法が考えられるのか検討していきましょう。

不安を取り除くための具体的な方法を考えるためには、何に不安を感じているのかを児童生徒本人から聞き取ることから始める必要があるのではないかと思います。支援する側が想像もしないところに不安を感じていることも多いからです。そして、不安を感じていることが分かったら、それに対して解決する手立てを本人や保護者と相談しながら具体的に考えていくことになるでしょう。本人が納得する支援が重要なのです。

例えば、「入学するのだが、教室の場所がどうなっているのか、入学式の手順がどうなのかが分からない」というようなことに不安を感じている場合を考えてみましょう。このようなときは、事前に学校見学の機会を設け、入学式会場を見たり、新しい教室なども見てもらったりしておく方法が提案できると思います。できれば新しく担任になる先生も紹介しておけばいいのではないかと思います。入学前からそのようなことはできないと考える人もいるかもしれません。しかし、そのことで不安に思い、学校に行くのもいやと考える児童や生徒がいるのです。不安を感じ困っている子どもに合わせるための最大限の配慮をすることは、教育において決してマイナスに作用することはないと思います。むしろ、教育的配慮しないことのほうが、その後の学校生活にはマイナスに作用すると思います。見学が無理な場合は、デジタルカメラや携帯電話等で撮った入学式会場の写真を送ったり、式次第を事前に送ったりすることで対応することも可能ではないかと思います。また、前年度の入学式の写真を送っておくという方法もあるのではないのでしょうか。安心して学校に来てもらうための工夫がいるのです。

転校で学校が変わる場合も同様です。事前に家から実際に通学路を使って学校まで行き、学校内を見学し、新学期から過ごす教室を見せたり、新しく担任になる先生の情報を知らせておいたりすることが、不安を取り除くうえで重要な教育的配慮となります。いずれにしても、新しい学校生活のスタートでつまづかないようにしておくことは、どの児童生徒にとっても重要なことなのではないかと思うのです。ここでつまづいてしまうと、学校に行けなくなってしまう子どももいるかもしれません。そのようなことにならないように、保護者とも協力して安心して新しい環境を迎えることができるような工夫が求められるのではないかと思うのです。

進学や転校ではなく、進級という形で新しい環境を迎える児童生徒もいる。進級の場合は、進学よりも不安は少ないでしょう。しかし、それでも新しい環境に対する不安は大きいものであると思います。

終業式の前に、自分のロッカー内の荷物や机やイスを新しい教室に移動させ、これまで使用していた教室をきれいに掃除するという方法も、不安を取り除き環境が変わることを意識づけるうえで効果的な方法だと思います。新しい教室に持ち物を移動させることで、新しい環境に見通しを持つことができるようにすると同時に、教室掃除と終業式をすることで、終わりを伝えることができるからです。終わりの儀式をすることで、「終了」したことを意識してもらうようにするという事です。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域 教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。